災害弱者を守るには＜中＞

障害に合わせ対策を

支援チーム整え避難

大雨災害に備えて、障害者はどんな準備をすればいいのだろうか。障害者と防災をテーマに研究に取り組む国立障害者リハビリテーションセンターの北村弥生さんは、障害者一人一人に合わせたプランが必要と語る。

―事前の備えは。

「避難訓練のときに、まず1人で避難所まで行けるか試してみましょう。障害といっても人それぞれ違うので、災害時にどうするのか〝作戦〟を立てておかなければなりません。本人が心地よいと感じられる計画を考え、そのコミュニティーの中でサポートチームをつくっていきます」

―具体的には。

「例えば車いすの利用者の場合、自宅マンションのエレベーターが止まったらどうするか。日頃、隣近所の方と付き合いがなければ『助けて』とは言いにくいものです。事前の仲介を、作業所の職員や特別支援学校の先生にしてもらえればスムーズに話が進むと思います。サポートをお願いするのは、歩いて5～10分ぐらい離れた場所に住む方でも構いません」

―他にしておくべきことは。

「おむつをしていて臭いが気になりそうなら、避難所に過ごしやすそうなスペースがないか確認してみる。発達障害で音などに敏感な場合は、1人用テントをどこかに設置できるように、あらかじめ関係者と話し合いをしておくといいです」

―在宅避難を選択した場合は。

「生活に必要なものを書いたカードを用意しておいて、見回りに来てもらった時に手渡すのも一案です。視覚障害がある場合は、ガラスなどが床に散らばっていないか確認してもらいましょう」

―周囲のサポートは。

「障害があると迷惑を掛けているのではないかと思ってしまうので、声を掛けてもらうのはありがたいこと。ただ、避難所で、四六時中『トイレに行きませんか』と言われると大変。カードを掲げて、困っていることを伝えられる仕組みにするといいですね」

国立障害者リハビリテーションセンター
北村　弥生さん

きたむら・やよい　1961年生まれ、さいたま市出身。東京大大学院博士課程修了。専門は保健学。国立障害者リハビリテーションセンター研究所社会適応システム開発研究室長。

台風で土砂災害の危険性が高まった伊豆大島を離れ、車いすで東京都渋谷区の避難所に入ったお年寄り＝2013年

横浜市で開かれた「高校生ボランティア・アワード2019」で活動を発表する高校生ら

高校生の地域貢献紹介

「認知症カフェ」、観光地にごみ箱…

横浜で交流イベント

社会貢献活動に取り組む全国の高校生が参加、交流するイベント「高校生ボランティア・アワード2019」が横浜市で開かれた。約100校の生徒が、授業で学んだ技術やアイデアを生かした活動を、会場のブースで来場者に発表した。

主催は、歌手さだまさしさんが設立した公益財団法人「風に立つライオン基金」。社会福祉や地域の活動に頑張る高校生を顕彰する目的で毎年開催し、今年で4回目だ。

認知症の高齢者と農作業を通じて触れ合う「認知症カフェ」を報告したのは青森県立五所川原農林高校。リンゴ農家だった高齢者と畑で作業したり、生徒が発案したハンドマッサージをしたりして交流している。3年生の山崎未来さんは「畑に出ると楽しかった記憶を思い出す人も多い。夢中になっている様子を見ると、活動してよかったと思う」と話した。

福島県立白河実業高校の生徒は授業で学んだ溶接技術を生かし、観光地に設置するごみ回収ボックスを製作。3年生の渡辺夏希さんは「地域の人から要望を聞き、降雪や景観にも配慮しています」と解説した。

他にも、東日本大震災の被災地支援や地域の環境保全、子ども食堂の支援など多様な取り組みが紹介された。さださんは「同じ志を持つ者が集まれば勇気になる。高校生ボランティア同士が広くつながってほしい」とエールを送った。

新入社員46.9%　10年内転職視野

民間調査

今年の新入社員に「今の会社で何年働くと思うか」と質問したところ、計46.9%が「10年くらいまで」と答えたとの調査結果を就職情報会社「マイナビ」が発表した。入社間もない新入社員の半数程度が既に転職を視野に入れていることになる。定年まで働くとしたのは、21.8%にとどまった。

調査は5月上旬にインターネットで実施し、新卒の男女800人が回答した。3年以内と答えたのは22.2%、4～5年は14.9%、6～10年は9.8%、10年以上は7.6%だった。

今の会社で長く働きたいと思わない理由（複数回答）は「ライフステージに合わせて働き方を変えたい」の44.4%が最多。次いで「転職でキャリアアップしたい」が29.7%だった。

同社は、20代の多くが転職を前向きに捉えているとした上で「子育てをしながら働くことは当たり前になりつつあり、両立しやすい環境を求める人は多い。終身雇用の前提が揺らぐ中、一つの就職先に頼らず自己成長しようとする人も増えている」と指摘した。

茶の間

台風の思い出

小畑（こばた）ミドリ

今年も台風の季節がやっ
気まぐれで、予報が外れる
降り続いたり、足踏みしたり
もたらしたりする。以前の台
かったが、居座ることはな
と晴れたものだ。子ども時
は、台風一過のすがすがしい
山里の台風はすさまじか
山並みを雨柱が斜めに吹き
どもはこれを「柱かたげ」
の「柱かたげ」は、終日走
も吹きちぎり、たたきつけ
る。
近くの小川がどうどうと
る。大きな岩石がごろんご
路が通行止めになったのだ
生活維持ができた。濁流の
の水浴場だった。台風の数
景色が一変していた。あっ
らず、新しい岩石が流れて
この光景を懐かしく思い出
最近の台風だったら、ど
戸も家は残っていなくて杉
里。その山里の小さい家で
方に付けて、強く生きてい
する。

献立のヒント

生ハム巻きおつまみ風

2人分で生ハム6枚、大根100㌘、玉ネギ50㌘、赤パプリカ40㌘、サラダ菜2枚を用意します。

大根はスライサーで幅5㍉、長さ15㌢の短冊状に削って6枚用意します。玉ネギとパプリカは縦に薄切りにしてまぜ合わせて6等分します。サラダ菜は幅6～7㌢、長さ10㌢にちぎり6枚用意します。

大根1枚の上にサラダ菜を、その上に生

生活短信

◇おとなのための夏の夜のおはなし会　9月6日午後7時～8時半、宮崎市中央公民館。同市のお話語りグループ「おはなしの木」（土田さゆき代表）による昔話や怖い話の語り。長年県内の子どもたちに絵本の読み聞かせや語りを続けている同団体が、大人向けに開く。入場無料。定員30人。ファクスで25日までに申し込む。土田さん☎0985(28)9558(ファクスも)。